

資料 1 2 「埼玉県文化アクションプラン」(抜粋)

3 創出すべきレガシー

(1) 交流と創造による個性ある多様な埼玉の文化の魅力発信

- ① 東京 2020 大会及び RWC2019 終了後に継承される、個性ある多様な文化芸術活動。
- ② オール埼玉による新たな連携・協働関係の構築、及びそこから創造される新たな文化芸術とその発信。
- ③ 東京に隣接していながらも自然と日本の伝統や文化が多く残されている本県の特性を活かし、アーティストが埼玉を創作の場としながら活躍できる環境づくり。

(2) 未来を切り拓く若い世代の活躍

- ① 子供・青少年が優れた文化芸術を日常的に鑑賞、体験、発表できる機会の増大。
- ② 若い世代が事業の企画・運営に参画するなど、文化芸術活動を支える人財を育成できる環境づくり。

(3) 文化芸術をつなぎ役とした人と地域の活力の創出と次世代への継承

- ① 文化芸術活動を通じた、地域コミュニティの再生。
- ② 高齢者が健康で元気に過ごすための生きがいとしての文化芸術の活用。
- ③ 障害者の文化芸術活動の推進などによる、多様性を尊重する共生社会の実現。
- ④ 文化芸術活動を契機とした、観光や新たな産業の振興。

4 取組の方向性

(1) オール埼玉での取組

- ・ 多様な主体による連携・協働
- ・ 芸術家の育成と文化芸術を支える人財の充実

(2) 「東京 2020 アクション&レガシープラン 2016」等を活用した取組

「東京 2020 参画プログラム」及び「beyond2020 プログラム」を積極的に活用して、取組を進めていきます。

5 具体的な取組

(1) オール埼玉ネットワーク体制での展開

オール埼玉で、様々な主体が連携・協働していく取組を推進していきます。

(2) 日本文化の再認識と継承・発展

長年受け継がれてきた日本独自の生活文化、さらには県内各地域に伝わる

伝統芸能や大切に保存されてきた文化財といった、「和」の精神・文化について、様々な角度から焦点を当ててその価値と魅力を再認識し、国内外に発信するとともに、後継者の育成など次世代への継承と発展を図っていきます。

<アクション例>

- 日本文化の体験
 - ・博物館などにおける伝統文化の展示や体験プログラムの実施
- 埼玉の歴史・文化の価値の再発見と魅力発信

(4) 埼玉の様々な文化の世界への発信と国際交流

東京 2020 大会、RWC2019 という国際的な大会が本県で開催されることで、様々な国や地域から多くの方が来県することが予想されます。

これは、本県が持つ多種多様な文化資源の魅力を世界に発信する絶好の機会であり、この機会を活用する取組を進めていきます。

また両大会の開催は、普段は接することのできない海外の文化芸術に触れる機会とも言えます。

この機会に海外の文化芸術と交流する取組を実施し、文化芸術の国際交流を進めていきます。

<アクション例>

- 本県の歴史・文化・自然や、本県で開催される文化芸術事業、イベント等の情報の一元化と、外国人や外国語による世界への魅力発信
- 本県の文化芸術と海外の文化芸術をコラボさせた事業の実施

(参考1) 東京 2020 参画プログラム

「東京 2020 参画プログラム」とは、様々な組織や団体がアクション&レガシープランで提示されたアクションを実施する仕組みで、参画プログラムとして認証されることで、マークの使用や「オリンピック・パラリンピック」等の文言使用が可能となるものです。

(参考2) beyond2020 プログラム

「beyond2020 プログラム」は、「日本文化の魅力を発信するとともに、共生社会、国際化に繋がるレガシーを創出する」ことを目的として、文化に関わる幅広い活動を内閣官房が認証する制度です。

認証されることで、「beyond2020 ロゴマーク」を使用することができます。

営利活動、非営利活動に関わらず、文化に関わる幅広い活動が対象となります。また、公的機関のほか、学校法人や任意団体、民間事業者などさまざまな主体が参画することができます。